

## 【 2021年度 国際交流委員会 事業報告】(案)

## 国際交流委員会

委員長校 : 神戸大学

副委員長校: 神戸常盤大学、神戸市外国語大学

委員校: 明石工業高等専門学校、芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西福祉大学、関西学院大学、聖和短期大学、甲南大学、甲南女子大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女学院大学、神戸親和女子大学、園田学園女子大学、園田学園女子短期大学部、姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫県立大学 計27校

## &lt;目的&gt;

「国際都市神戸」を有する兵庫県の大学・短期大学・短期大学部・高等専門学校が加盟するコンソーシアムとしてグローバル人材育成を目指した事業を展開する。

## &lt;内容&gt;

1. 学生海外派遣プログラム
2. 兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業

## &lt;期待される効果&gt;

1. 学生海外派遣プログラムにおいては、委員校が実施するプログラムを加盟校に開放し、当該プログラムに興味を持つ複数の加盟校の学生がプログラムに参加して交流することで、正課授業では得ることのできない経験とネットワークの構築が期待される。
2. 兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業においては、学生が主体的に学ぶことによる行動の変容、大学連携・産官学連携による留学生支援の新たな課題とニーズの取組促進、高度外国人材としての留学生の理解促進等の効果が期待される。

実施プログラム名称		予算額
①	学生海外派遣プログラム	50,000円
②	兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業	9,625,000円

【2021年度 国際交流委員会 事業報告①】

課題	“ひょうご神戸”の国際性を活かしたグローバル人材教育		
達成目標	本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合:参加学生の80パーセント以上(期間中に2回測定)		
課題を解決する取組概要	日本は、衛生面・医療面で世界的に恵まれているが、国外において自らが体験することで医療に対する国際感覚を高める。 習慣・文化・社会が日本と大きく異なる国への訪問を通して自国の状況を客観的に判断可能になり、海外から学ぶべきこと、また、海外で貢献できる点を理解し、問題解決能力を養う。		
活動指標	参加者数:2名以上/年(主催大学以外の学生数)		
内容 (結果)	<p>【実施内容】</p> <p>○医療検査コース(対象学科:臨床検査技師や栄養士など医療系学科) アメリカ(ボストン):病院、バイオテック企業、大学研究室などへの訪問。 医療検査の知識を発展できる施設でのインタビューを通じた見学研修。 ネパール(カトマンズ):病院、研究所、医療系大学等へ訪問、水質調査、微生物検査、衛生環境調査などフィールドワークを主とした内容。現地医療系学生との交流。</p> <p>○看護コース(対象学科:看護師養成系学科) アメリカ(ボストン):世界トップレベルの病院、大学研究施設、ホームレスクリニック等へ訪問。 視野を広げる研修。 ネパール(カトマンズ):現地病院やヘルスポストなどへ訪問。住民の健康状態の調査などフィールドワークを主とした内容。現地医療系学生との交流。</p> <p>【開催時期】 2021年9月11日(土)～9月20日(月)(予定)</p> <p>【募集人数】 各コース各国若干名 【費用】 アメリカ32万円、ネパール20万円(為替、航空券代金によって変動あり) 【引率者】 神戸常盤大学教員 各コースごとに1～2名 【その他】 事前および事後研修への参加が必要(場所:神戸常盤大学) 【事前説明会】 渡航が決定すれば説明会を開催予定</p> <p>【訪問国及び日本国の渡航制限状況により、プログラムの中止を決定した。】</p>		
新しい試み等 (事業計画に記載)			
事業収支	収入 50,000円	支出 円	収支 50,000円 備考
自己評価	【対到達目標】	-	【対継続性】 4
	(各事業委員会にて、4段階評価と検証結果(問題点、課題、改善点、改善内容、など、を記載) ・新型コロナウイルス感染症影響で2年続けて、見送りとなったが、コロナ禍が落ち着いた段階で再開予定。		
■自己評価基準 (対到達目標)	4:当初計画を上回って達成 3:当初計画を達成 2:当初計画をやや下回った 1:当初計画を下回った	■自己評価基準 (対継続性)	4:本プログラムは継続すべき 3:本プログラムは継続しても良い 2:本プログラムの継続には改善が必要 1:本プログラムは中止すべき
理事会からの 改善提案 (次年度事業計画 に反映)	・昨年に続き、新型コロナウイルス影響で中止となったが、これまで参加学生の満足度は高く、来年度以降も継続して開催することを期待する。		

【2021年度 国際交流委員会 事業報告②】

課題	“ひょうご神戸”の国際性を活かしたグローバル人材教育			
達成目標	本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80パーセント以上（期間中に2回測定）			
課題を解決する取組概要	＜兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業＞ 大学連携による国際交流の拠点を、大学キャンパス外の地域社会に形成することで留学生と日本人学生、地域の人々が学びあう多文化共生社会に向けた場を創造する。			
活動指標	参加者数500名以上／年			
内容 (結果)	<p>1、外国人留学生の活用と相互理解・共生推進のための事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学生組織構築活動TeamG-navi「ファシリテーション・プロジェクト演習」「広報プロジェクト演習」 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファシリテーション演習(4/21～6/9(計6回) 留学生・日本人学生・社会人 【実績】96名</li> <li>・広報プロジェクト演習 (5/27～6/24(計5回) 留学生・日本人学生 【実績】94名</li> </ul> </li> <li>○大学等との連携による協働事業(加盟校等の教学協働プログラム) <ul style="list-style-type: none"> <li>【連携】甲南女子大学、神戸常盤大学 通年2～3回、対象：留学生・日本人学生</li> <li>・甲南女子大学×留学生オンライン国際交流会 (9/22、10/20、11/2、12/7) 【実績】136名</li> <li>・KICC多文化共生の場をみんなでつくろう！(10/8) 【実績】29名</li> <li>・動画演習プロジェクト(9/16～10/16) 【実績】35名</li> </ul> </li> </ul> <p>2、高度外国人材としての留学生向けキャリアサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○留学生のキャリアイベント(公益社団法人関西経済連合会共催)(11/22、12/1) 留学生 【実績】81名</li> <li>○キャリアカフェ「Nada Global Village(NGV)」学生企画オンラインセミナー <ul style="list-style-type: none"> <li>偶数月：キャリアとダイバーシティ 奇数月：SDG's 年10回、対象：留学生、学生、社会人</li> <li>キャリアとダイバーシティ(4/18:28名、6/21:42名、10/5:36名、12/13:21名、2/15:65名)</li> <li>SDG'sディスカッション(5/17:33名、7/17:24名、9/17:38名、11/17:30名、1/17:29名、3/17:47名)【実績】393名</li> </ul> </li> </ul> <p>3、防災教育「防災セミナー」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○兵庫国際交流会館の地域特性を生かし防災減災に備えるセミナー(6/20)留学生、学生、社会人【実績】85名</li> <li>○GPSランと音楽で繋がる人の輪と防災！(3/6) 【実績】34名</li> </ul> <p>4、地域連携プログラム「英語村」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学生が企画し、中高校生等を対象に英語を通じたコミュニケーションの楽しさや学びを提供</li> <li>6/23、8/3、10、対象：留学生・日本人学生・地域小中高校生等 【実績】126名</li> </ul> <p>5、留学生・国際交流情報の発信事業・支援者間ネットワークの体制整備→加盟校・関係団体とネットワーク構築</p> <p>【総括】累計参加者数：約1,100名、国際理解が深まったことを実感する学生の割合：90%以上(アンケートより)</p>			
新しい試み等 (事業計画に記載)				
事業収支	収入	支出	収支	備考
	9,625,000円	9,625,000円	0	

自己評価	【対到達目標】	4	【対継続性】	4
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍が続く中、対面でのイベントが困難な中、オンラインを活用し、本年度プログラムを遂行した。</li> <li>・企画・運営・ファシリテーション・広報・通訳各々の特性を持つ学生組織を構築。</li> <li>・プログラムを単体でなく、複数のプログラム企画メンバーが連携し、人の交流を生み出した。</li> <li>・コロナで変化したニーズを拾い、状況に応じたプログラム構築を実施。10月よりリアルイベント開催。</li> <li>・兵庫国際交流会館での利用制約を踏まえ、新たな協力拠点を構築した。</li> </ul>			

■自己評価基準  
(対到達目標)

- 4:当初計画を上回って達成
- 3:当初計画を達成
- 2:当初計画をやや下回った
- 1:当初計画を下回った

■自己評価基準  
(対継続性)

- 4:本プログラムは継続すべき
- 3:本プログラムは継続しても良い
- 2:本プログラムの継続には改善が必要
- 1:本プログラムは中止すべき

理事会からの改善提案 (次年度事業計画に反映)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナ影響等で兵庫国際交流会館の利用制限の中、新たに関連団体とのネットワークを構築し複数のサテライト拠点での事業を展開すると共に広報プロジェクト卒業生が大学間連携事業を企画するなど事業を越え高校生、卒業生を含む人材ネットワークを構築している。</li> <li>・今後の更なる活動に期待する。</li> </ul>
----------------------------	---